

作成日:2020年05月13日

製品安全性データシート

1.【製品及び会社情報】

カタログ番号 226730
製品名 クックドミート培地
会社名 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
住所 東京都港区赤坂4丁目15番1号
連絡先 0120-8555-90
使用上の制限 研究用試薬

2.【危険有害性の要約】

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	可燃性エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発燃性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過氧化物	区分に該当しない
	金属腐食性物質	分類できない
	鈍性化爆発物	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(呼吸器)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

強い眼刺激
呼吸器の障害のおそれ

注意書き

- 安全対策
- 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 - 取扱い後はよく手を洗うこと。
 - この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 - 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 応急措置
- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - 眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。
 - ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- 保管
- 換気の良い、冷暗所で保管すること。
 - 容器を密閉しておくこと。
- 廃棄
- 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

3.【組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名または一般名	濃度 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
水酸化カルシウム	2-3	1305-62-0	(1)-181	-

4.【応急措置】

- 吸入した場合 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚を速やかに洗浄すること。
多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
- 眼に入った場合 直ちに医師に連絡すること。水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 口をすすぐこと。
医師に連絡すること。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 吸入した場合：咽頭痛、咳、灼熱感。
皮膚に触れた場合：刺激、発赤、ざらつき、痛み、皮膚の乾燥、薬傷、水泡。
眼に入った場合：発赤、痛み、重度の薬傷。
飲み込んだ場合：灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐。

5.【火災時の措置】

消火剤	粉末消火剤、二酸化炭素、散水
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器内に水を入れてはいけない。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
消火を行う者の保護	消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6.【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項 回収・中和	環境中に放出してはならない。 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	封じ込め及び浄化方法・機材:危険でなければ漏れを止める。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 容器内に水を入れてはいけない。 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7.【取扱い及び保管上の注意】

取扱い	
技術的対策	『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保管	
安全な保管条件	技術的対策:保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

8.【ばく露防止及び保護措置】

製品としての情報がないため以下、水酸化カルシウムを記載する。

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会	未設定(2014年版)
ACGIH(TLV-TWA)	- (2014年版)
ACGIH(TLV-STEL)	- (2014年版)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 化学飛沫用のゴーグル及び適切な顔面保護具を着用すること。 安全眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

9.【物理的及び化学的性質】

物理的状态、形状、色など	淡黄色の粉末
臭い	特異臭
pH	データなし
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
引火点	該当しない
可燃性	データなし
爆発下限及び爆発上限界／ 可燃限界	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
動粘性率	データなし
溶解度(水)	不溶
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10.【安定性及び反応性】

製品としての情報がないため以下、水酸化カルシウムの安定性及び反応性情報を記載する。

反応性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	大気中で炭酸ガスを吸収し、漸次炭酸カルシウムとなる。 加熱すると分解し、酸化カルシウムを生じる。
危険有害反応可能性	酸類と反応し発熱する。 強酸化剤と反応する。 水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性/爆発性のガス(水素)を生成する。
避けるべき条件	空気との接触。加熱。
混触危険物質	強酸化剤、酸類。水の存在下で、多くの金属を侵す。
危険有害な分解生成物	酸化カルシウム

11.【有害性情報】

製品としての情報がないため以下、水酸化カルシウムの有害性情報を記載する。

急性毒性	経口(ラット TDLo)	7,340mg/kg との報告 (ACGIH (7th, 2001)、HSDB (Access on September 2014)) に基づき、区分外とした。
	経皮(ウサギ LD ₅₀)	データ不足のため分類できない。
	吸入(ラット LC ₅₀)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性		本物質は強塩基性物質 (pH 10.9-11.9 (EPA Pesticide (2005))) であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (ACGIH (7th, 2001))。また、本物質はヒトの皮膚に対して中等度の刺

<p>眼に対する重篤な損傷性／刺激性</p> <p>呼吸器感作性</p> <p>皮膚感作性</p> <p>生殖細胞変異原性</p> <p>発がん性</p> <p>生殖毒性</p> <p>特定標的臓器毒性(単回ばく露)</p> <p>特定標的臓器毒性(反復ばく露)</p> <p>誤えん有害性</p>	<p>激性を示すとの記載 (IUCLID (2000)) や、軽度の刺激性を示す (EPA Pesticide (2005)) との記載がある。以上の情報から、本物質は強塩基性物質であるが、皮膚への影響は「中等度又は軽度」との記載から、区分 2 とした。</p> <p>本物質は強塩基性物質 (pH 10.9-11.9 (EPA Pesticide (2005))) であり、身体表面に中等度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある (ACGIH (7th, 2001))。また、本物質は眼に対して腐食性を示す (IUCLID (2000)) との報告や、非可逆的な傷害を与える (EPA Pesticide (2005)) との記載がある。以上の結果から、区分 1 とした。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>本物質のデータは限られているが、ヒトに気道刺激性、粘膜腐食性があり、咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、EPA Pesticide (2005)、HSDB (Access on September 2014))。実験動物のデータはない。</p> <p>以上より、ヒトの気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記載があることから、区分 1 (呼吸器) とした。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p>
---	--

12.【環境影響情報】

製品としての情報がないため以下、水酸化カルシウムの環境影響情報を記載する。

<p>生態毒性</p> <p>水生環境有害性(急性)</p> <p>水生環境有害性(慢性)</p> <p>残留性・分解性</p> <p>土壤中の移動性</p> <p>生態蓄積性</p> <p>オゾン層への有害性</p>	<p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>データ不足のため分類できない。</p> <p>該当しない</p>
---	--

13.【廃棄上の注意】

<p>残余廃棄物</p> <p>汚染容器及び包装</p>	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</p> <p>都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。</p> <p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
------------------------------	---

14.【輸送上の注意】

<p>国際規制</p> <p>国連番号</p> <p>国連品名</p> <p>国連分類</p> <p>容器等級</p> <p>海洋汚染物質</p> <p>国内規制</p> <p>陸上規制情報</p>	<p>危険物として規制されていない。</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p> <p>該当しない</p>
---	--

海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない
特別安全対策	<p>輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。</p> <p>食品や飼料と一緒に輸送してはならない。</p> <p>他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。</p> <p>他の危険物のそばに積載しない。</p>

15. 【適用法令】

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法 57 条、施行令第 18 条:水酸化カルシウム) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57条の 2、施行令第 18 条の2:水酸化カルシウム)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
大気汚染防止法	該当しない
海洋汚染防止法	該当しない
消防法	危険物非該当
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない

16. 【その他の情報】

参考文献

安全衛生情報センター モデル MSDS 情報データベース
NITE 総合検索

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における科学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではございません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いいたします。

改訂履歴 新規作成 2020年 5月13日